



新型コロナウイルス 対策支援

酒井 信幸



問 地元応援割増商品券の販売方法が5月の臨時議会で説明された内容から変更になった。なぜ急に変更になったのか経緯を伺う。

市長 割増商品券の販売については、市民の皆様に変えて迷惑をお掛けしましたことを改めてお詫び申し上げます。

市民経済部長 事業内容の詳細は、流動的な点があったことから臨時議会時点での案を説明しました。その後、実行委員会の意見を踏まえ、より高い経済効果を生み出すため販売方法を変更しました。

問 5月15日開催、岩沼市地元応援割増商品券販売事業委員会の数日後に、それまでに決定されていた議事内容が変更された。実行委員会委員も全然知らなかったとのことだが、それについて伺う。

市民経済部長 実行委員会事務局である商工会事務局に相談して、急ぎよ変更しました。

問 議会や実行委員会に説明した内容が変わった。今後しっかりと検証して第2弾の割増商品券を販売するに当たり、問題が起らない

ように考えるべきではないか。

市長 飲食店業の方々にV字回復してもらいたいという緊急課題もあり、市民に魅力あるものにしたいの思いでした。販売方法へいろいろのご批判があることについては、真摯に受け止め、次に結び付けたいと思います。

問 市長の定例記者会見で、全業種を対象とした第2弾の割増商品券販売事業を検討中としていたが、どのように考えているのか。

市民経済部長 前回のような渋滞や混乱が起きないようにし、落ち込んだ地域経済活性化のため、効果的な事業を実施します。

商品券販売方法を考える

問 第1弾の商品券販売の二の舞にならないよう、しっかりと対応を行い、いろいろな業種が非常に困窮していることも踏まえて商品券の販売方法を考えてもらいたい。

市民経済部長 できるだけ多くの業種の方を対象にと考えます。

◎その他の一般質問
・避難所の追加等



新型コロナウイルス感染症の 医療体制及びPCR検査体制

佐藤 一郎



問 新型コロナウイルス感染症は、秋から冬にかけて第2波、第3波が来ると予想される。感染症患者受け入れの病床の確保や医療体制強化について、県に強く要望すべきではないか伺う。

市長 市として、できることの最善を尽くしたい。第2波、第3波に新しい取組をして、医療体制の整備、強化が最も大事であり、医療の役割、病床数、宿泊療養の確保、あるいは経済対策も含め、県に要望しています。全国市長会を通して国にも要望をしています。

問 PCR検査状況は、県保健所の岩沼支所で行うのか、塩釜保健所で行っているのか伺う。

健康福祉部長 県保健所岩沼支所では行っていない。県の機関、仙台市の機関、帰国者・接触者外来で検査を行っています。

問 新型コロナウイルス感染症のPCR検査を適切に実施するため

市内医療機関、または2市2町の医師会と連携し、受診体制を整える必要があると思うがどうか。

健康福祉部長 PCR検査は、県

から当面は十分な検査体制を確保していると同っており、今後、件数が増加した場合は、PCR検査調整会議で検討すると伺っています。2市2町の医師会が連携し、発熱外来などの受診体制について、保健所と2市2町で情報を交換し、共有して協議したいと考えます。

問 PCR検査は、現在感染者がゼロであるが、今後、秋、冬にかけてインフルエンザと間違えやすい症状であり、体制を急ぐ必要がある。いつまでに行うのか伺う。

健康福祉部長 第2波、第3波に備え、今年の秋口あたりまでに何とか体制を整えたいと思います。

PCR検査設置の検討を

問 2市2町の医師会で運営するPCR検査センター設置を検討しているかどうか伺う。

健康福祉部長 PCR検査は、2市2町の管内で検査ができない状態です。PCR検査を管内でできる体制づくりを県に要望したいと考えます。